

第4回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議録

- 日 時 令和7年4月16日(水) 午前10時～午前11時56分
- 会 場 総合保健福祉センターにこ・ふる 大会議室
- 出席委員
櫻井孝輔／渡辺真美／富樫繁朋／田中英嗣／長谷川玲子／今野喜行／丹治亜香音／阿部真一
- 欠席委員 佐藤竜太／梅木広土／大滝忠／佐藤正和／本間妃織／本間久土／清野康子
- アドバイザー 仲綾子(オンライン)
- 市側出席職員
鶴岡市長 皆川治／企画部長 上野修／健康福祉部長 菅原青／建設部長 坂井正則／政策企画課若者・子育て世代応援推進室長 本間育子／子育て推進課長 成沢真紀／同課主幹 五十嵐雄／都市計画課長 岡本臣市／都市計画課課長補佐 本間仁／子育て推進課主査 上野和義／同課専門員 今井恭／同課主事 高木康輔／政策企画課主事 菅原拓磨／子育て推進課主事 石黒心
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 11人
- 協議・報告事項等
 - (1)『遊びに本気宣言！鶴岡市こどもの遊び場整備方針』の策定について(資料1)
 - (2)キッズドームソライ利用料軽減事業の予算案の審議結果について(資料2)
 - (3)令和7年度のこどもの遊び場整備の取組について(屋内の遊び場の利用料軽減)
(資料3)

1 開会 事務局(子育て推進課主幹)

2 挨拶 (鶴岡市長)

3 報告〈議長：委員長〉

- (1)『遊びに本気宣言！鶴岡市こどもの遊び場整備方針』の策定について
- (2)キッズドームソライ利用料軽減事業の予算案の審議結果について

議長

(1)『遊びに本気宣言！鶴岡市こどもの遊び場整備方針』の策定について、事務局の説明をお願いします。

事務局(子育て推進課長)

『遊びに本気宣言！鶴岡市こどもの遊び場整備方針』の策定について資料1により説明。

3回の協議会での意見を踏まえて3月下旬に『遊びに本気宣言！鶴岡市こどもの遊び場整備方針』を策定した。基本的な考え方は、こどもの創造性や主体性を向上させる遊びの環境の整備、こどもにとっても大人にとっても魅力的で多様な遊び場の整備、鶴岡の地域資源を活かした遊び場の整備の3つ。今年度から、この方針をもとに遊び場の整備を進めていく。

議長

ただいまの報告について、質問等あればお願いします。（質疑無し）

続いて、（2）キッズドームソライ利用料軽減事業の予算案の審議結果について、事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

キッズドームソライ利用料軽減事業の予算案の審議結果について資料2により説明。

子育て世代などからの要望を受け、遊び場整備方針に基づいてソライの利用料軽減を行うための予算案を3月議会に提案した。議員から、令和7年度予算案から本事業を削除する修正案が出され、審議の結果、修正案に賛成13人、反対12人の賛成多数で修正案が可決され、ソライの利用料軽減は認められなかった。

利用料軽減に賛成の議員からは、既存の施設を活用した居場所確保が重要、無料で遊べる大型の屋内遊び場が欲しいという要望に応えるものなどの意見があった。

軽減に反対の議員からは、公平性の観点から疑問が残る、こどもが利用する全ての施設の無償化を検討すべき、民間企業の運営支援にあたるのでは、代案としてクーポン券の配布を検討しては、などの意見があった。

議長

賛成の意見がある一方で反対の意見もあった。これらの意見について、どういった所見をお持ちかお聞かせいただきたい。

委員

議会で真剣に議論され、市政にとって良い機会になったと思うが、ボタンの掛け違いというか、見え方としてずれている印象を受けた。鶴岡市が子ども達の遊びを応援するということが大義だったと思うが、いつの間にかソライに対して支援するという大義に置き換わってしまったような気がして残念だった。少し見え方さえ変えればもっと良い事業になったのではないか。

遊びに関わる事業者はたくさんあるので、競い合って、子ども達に学びや遊びの場を提供できれば、さらに鶴岡市が良くなるのではないかと感じている。

委員

公平性に疑問が残るという考えは理解できるが、大きな施設の選択肢としてはソライしか

ない。また、すべての施設の無料化は難しいので、優先順位をつけて考えればいいのではないか。実施に向けての検討不足とあるが、検討に終わりではなく、限られた時間で目いっぱい議論してきたことに対する客観的評価は仕方ない。次の策として市が検討していることは良いと思う。利用料軽減が一企業の経営支援になっているとは思わない。むしろ市として一緒に頑張っていこうという意味での投資として適切ではないか。クーポン券は使う方がいいが、事務的に負担が大きいのではないか。無料というのは明確でインパクトがあり、ソライの利用料軽減が継続できれば良いと思う。

委員

賛成意見・反対意見ともに理解できるころはあるが民間企業であるということに囚われてしまうと議論は終わってしまう。

協議会では、こども達の遊び場がないために、やってみないとわからないが、一つの挑戦という形で利用料を軽減してみてもどうかという話だったが、こども達のことを考えるということが抜けてしまった。遊ぶのは大人ではなくこども達で、選択肢の一つとしてソライがあってもいいし、遊びについて、立場や遊び方でそれぞれの定義の仕方がずれてしまっていると思う。市民はどのような遊び場が欲しいのか、定義づけをしっかりと、皆で確認し合わない話の論点もずれてしまうので、何のために協議会が立ち上がって、利用料のことを話しているのかということも、もう一度話し合っていければ良いと思う。

委員

議会で反対されて予算案が予備費に回されたと聞いてがっかりした。我々が話しているのは、大型の遊び場がないという中で、こどもの多様な遊びを広げるため、民間企業へ投資するのではなく、たまたまそこにソライがあったからというだけの話で、どの会社でやっていたとしてもそこに投資をするということについて、反対した議員の理解が不十分だったのではないか。子育て世代からの要望は本当に切実で、それに応えるために今あるものを有効に活用するという考え方が良いと思う。

合わせて、閉校になった学校などを活用して、小堅ランドのような小規模な遊び場を地域の拠点に配置すると良いと思う。

委員

子どもまつりを小真木原総合体育館で行うようになってから、来場者が大幅に増えた。大きい施設で遊びを提供すると、たくさんの方が来ることに繋がるので、ぜひソライの料金を軽減して、こども達に使わせていく方向に進んで欲しい。

昨年行った親子モニターで出てきた要望は、議員もご存知のことと思うがどうか。

皆川市長

親子モニター事業の内容は議会にも共有しており、その上で今議会での意見が出された。

市政や議会に注目が集まるという意味では民主主義の大事なプロセスだが、一方で子ども達の現状は何も変わっていない。遊びについて委員の皆様の理解はだいぶ深まってきていると思うが、子ども達の現状は変わっていないということを踏まえてご議論いただきたい。

委員

報道で議会の結果を知り、子育て世代ではない方の意見で通らなかったのだとママ友と話をし、せっかく子どものために皆が動き出そうとしていたのに残念だと思った。

SNS等で調べてあちこち出掛ける親の世代が多いので、インパクトのある告知をすれば皆が行くと思う。子育てで選ばれる鶴岡市になるために、ソライの無料化や支援を取り入れて欲しい。

議長

ママ友さんの意見はどのようなものがあったかお聞きしたい。

委員

修正案に賛成反対の人数や、クーポン券の配布など代案が出ていたことも知らなかったの、せっかく市が子育てに手厚く支援しようとしていたのに何故議会の人はわかってくれないのか、子育て世代や子どもをないがしろにしているのでは、という話になった。

議長

市政として子育て支援に頑張ろうとしている町だということは理解してもらっていると考えていいか。

委員

伝わってはいると思うが、私は市として頑張っているというアピールをする。

委員

保護者の中で、屋内で遊べる施設の要望は毎年必ず出るので、それに応えられる一つの案だったので、とても残念だという気持ちが大きかった。ただ、この方向性は良いと思うので、議会の方々に受け入れられて実施できるように、子ども達のためだという視点を絶対ぶらさないようにしながら言い続けていくことが必要だと感じている。

委員

負け試合ではあったが、12対13の一票差で悔しいけど、もうやめようとはならない。どうやったら勝てるのか考えるのがこのチームだと思う。間違ったことは言っていないし、議会の方達の意見もとても大事であり、議会に理解してもらうために検討し、思いを届けていかなければならない。

12対13で負けたが、逆に13対12の1点差で勝っていたら、やりにくさがあったのではないか。次につなげていくためにも色々な議論をしていきたい。

委員

議員の方々は、こどもの遊び場に対して応援したいという気持ちは同じだったが、方法について改善の余地があるということでの反対票だったので、こどものことは常にまんなかで1番に考えていることについて、誤解なきよう考えてもらいたい。

我々が議論している遊びはカタカナのアソビではないかと感じている。鶴岡に住む人々がこどもに対してどういう遊びを提供していくかを定義していくことが、梯子を掛け違えないためにも必要であり、『遊びに本気宣言！』の表紙に、鶴岡が考える遊びを定義すると、今後の議論がスムーズになると思う。

皆川市長

『遊びに本気宣言！』に検討されたメンバーや検討経過を入れて欲しかった。鶴岡における遊びをどう考えるかをもっと書き込んだ方が良いというご意見はその通りで、協議会で色々な議論が交わされていることは非常に重要と思う。

これからの対応をこの後提案するが、『遊びに本気宣言！』は一言一句変えられないものではないので、こども達の期待に応えていくために、さらに進化させることを事務局に期待したい。

4 協議

令和7年度のこどもの遊び場整備の取組について（屋内の遊び場の利用料軽減）

議長

令和7年度のこどもの遊び場整備の取組について、事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

令和7年度のこどもの遊び場整備の取組（屋内の遊び場の利用料軽減）について資料3により説明。

市民ニーズに早期に応えるため、実証的に、ソライ、小堅ランド、スパールについて、小学生までのこどもと付添いの大人1名の利用料を無料にし、合わせて、利用動向やニーズについて調査を行い、遊び場整備のための基礎データにしたいと考えている。

3つの施設を選んだ理由は主に4点で、屋内施設であること、多種多様な遊びができる場であること、インクルーシブな環境を整えることができる場所であること、親子で遊ぶ場所であることを考慮した。

実施時期は今年8月から来年3月までとし、3施設で無料利用できる「遊び場利用パスポート」を配布する方法を考えている。事業の利用者や施設の運営者にアンケートやヒアリン

グを行い、これを踏まえて来年度以降の取組を検討していく。

議長

事務局の説明に対して出席委員の皆様のご意見をいただいた後に、欠席された委員のご意見も事務局から紹介する。

事務局に2点確認したい。1点目は、ソライについて前回出したものと同じ内容かどうか。2点目は、パスポートとはどういうものか説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

前回のソライ利用料軽減と違う点は、今回は小学生以下の遊びの環境を整えるため、中高生の利用料軽減は除いている。中高生の居場所づくりは別に考えていきたい。

パスポートは、受付で提示することで施設を無料で利用出来るもので、上限額や回数制限を設けず、何度でも利用できることを想定している。

議長

ただいまの報告について、質問や提案を含めて委員の皆様からお話いただきたい。

委員

共通パスポートは、市が検討して前に進んでいる実感が良いと思う。パスポートの対象は鶴岡市民限定という理解でいいか。

事務局（子育て推進課長）

対象は、鶴岡市在住のお子さんと付添いの大人の方と考えている。

委員

広い市域の中で様々な特徴ある遊びの活動をしている団体がたくさんあるので、施設を限定しないで公募してもいいのではないか。

今後の課題の中に子育て支援拠点の活用とあるが、子育て支援センターは遊び場として一所懸命やっており、子育ての悩みなどにも対応している。課題としないで一緒に周知していけば、遊びの幅や遊び場の定義も広めながら活動できるのではないか。

皆川市長

鶴岡市はSDGs未来都市の施策を推進する中でパートナーシップというものを重視している。遊びについても民間団体とパートナーシップを構築していく必要があり、3施設でのアンケートやヒアリングを行いながら、取組の方策を考えていく。

これからの共生社会を進めていく時に、子ども達や子育て世代が気軽に相談できたり立ち寄りすることができる場の整備は重要であり、この協議会の中で完結させるのではな

く、地域包括ケアの推進など、他の検討にもしっかり反映させたい。

委員

3施設での利用料軽減をやってみて、それから次年度以降に繋げていけば良いと思う。それぞれの施設は一日中利用しても料金は変わらないのか。

事務局（子育て推進課長）

ソライは土日や繁忙期は2時間までという制限があるが、平日は一日中遊べる。小堅ランドやスパールは、開館時間内は同一料金で自由に遊ぶことができる。

委員

小堅ランドの利用者のうち鶴岡市民の人数は。また、旧二小跡地で予定しているプレーパーク体験事業はどのようなイメージを考えているか。

事務局（子育て推進課長）

小堅ランドの利用者数は令和5年度が2,821人、6年度が1,868人で、市民と市民以外の内訳は把握していない。令和5年度はテレビなどで取り上げられたことで利用者が多かったと伺っている。

プレーパークの体験事業は、中央児童館などを使って、県内外でプレーパークの活動をされている方に来ていただき、一日プレーパークという形で遊びを展開することを考えている。その際、地元でこどもの遊びに関わっている方にもご協力をお願いするなどして、プレーリーダーとして養成していければと考えている。

委員

ぜひプレーリーダーの養成を進めて次に繋がる取組を行って欲しい。

皆川市長

令和6年度の小堅ランドの利用者数が減っているのが気になる。口コミなどで遊び場の魅力を伝え、リピーターを増やして行けるような取り組みも必要と思う。

委員

大山にある「ほとりあ」にも子ども達は遊びに来ている。寄附のようなものを求めているようだがどうか。

議長

「ほとりあ」では自然体験学習をはじめ様々な活動をしているが、基本的に入館料は発生せず、材料代など実費をいただくことはある。

皆川市長

「ほとりあ」は環境政策課の所管になるが、『遊びに本気宣言！』から除外されているということではなく、優先順位を付けながら取りこぼしがないよう取り組んでいく。

委員

3施設の利用料軽減は悪天候時の遊び場確保になると思うが、課題はそれだけでなく、遊び場整備方針にあるとおり、地域資源を活かした遊び場整備や、こどもの創造性を豊かにするための環境整備を進めるという建付けだと思う。この資料だけを見ると、ソライの利用料軽減の案が否決されたから単に3つに増やしましたという見え方になるのではないか。そうではなく、数ある課題の中の一つの屋内遊び場を充実する対策だということを確認に打ち出すと、市民も理解しやすくなると思う。

民間団体の公募という意見は良いと思う。親御さんはその他の施設のことはあまり知らないと聞く。公募することでやる気のある事業者の情報が吸い上げられ、また、遊び場に対する機運が市民レベルで盛り上がっている中、皆でやろうという機運の醸成になる。事業者がやりたい、親御さん達がここを使いたいという声があると、自然や文化など子ども達の知らない鶴岡の文化に身を置かせて、そこから成長を育みたいというニーズにも応えられると思う。

皆川市長

この資料のポイントは、5ページの今後の課題にあると理解している。3つの施設を無料にして終わりではなく、調査結果を整理して基礎資料にしていくということを目的にしているので、誤解を与えないようにしたい。

『遊びに本気宣言！』には、「ほとりあ」のことや、前回の会議で出た「イカの一晩干し体験」も含まれるなど、非常に奥行きがある話で、議論を矮小化しないで、やることはやり、奥行きを広がりをしっかり作っていくことも大事だと思っている。

議長

仲先生に伺いたい。3つの施設から取組を始めようと思ったが、一方で、3つで完結するのではないというメッセージを出す必要があるという話や、今後の課題を矮小化するのではなくさらに深く検討していく必要があるという話を受け、メッセージの発信の仕方について所見をお聞かせいただきたい。

仲アドバイザー

3つの施設について話をする前に、全体の感想をお話ししたい。

協議会で議論したことが『遊びに本気宣言！』という形で明確に提示されたことはとても意義のある大きな成果だと思う。

議会で反対があったと伺って大変残念だと思ったが、今日の議論を聞いていて、委員が指

摘されたように、13対12で通るよりも良かったと思う。提案のままずっと通ってしまったら今日の深い議論は無かったと思うと、立ち止まって、これまで議論してきたことを的確に伝えるためにはどうしたらいいかということ、さらに深く議論ができたので良かった。また、もうやめようとならずに、こどもにとって良い環境を提案し続ける姿勢に敬意を表する。

議会の動画を見て、こどもの遊びに大反対という議員は一人もおらず、賛成だが、私達の考えが上手く伝わらないところや、ボタンの掛け違いというところがあり、皆が鶴岡のこどものことを考えていることがよくわかった。

その上でボタンが上手くかみ合うようにするためには、選定された3つの施設が誤解されないよう丁寧に説明していく必要がある。なぜこの3つの施設を選んだのか事務局に質問した際に、選定基準が示され、それなりの手続きは踏んでいることはわかったが、上手く伝わる方法にはまだなっていない。このままでいくと、あれもこれもとたくさんの施設が出てきて收拾がつかなくなったり、大きな議論の前に、3つの施設一つひとつについて重箱の隅をつつくような議論に陥ってしまうのも困ると思った。

まずは地域資源をリストアップしていくことが大事で、鶴岡全体を俯瞰した遊びの場を一覧できるようにしておくことが重要と思う。公募やパートナーシップというお話があったが、リストアップして全体像を押さえたうえで、公募など透明なプロセスを経て、パートナーシップとしてやっていくという説明ができると、反対された議員も納得できるのではないか。委員が仰った、絶対にずらしてはいけない視点として、こどものためにどういう状況がいいかということを考えて、きちんとしたプロセスを経て選ばれた施設だとすることが望ましい。

一方で、事務局の説明にあった「早期に答える」という視点も大事で、子育て世代は今まさに困っているので、オープンにして透明性あるプロセスを経ながらも、少しでも早く、目の前で困っている人たちが助かるような流れを作っていけると良い。

委員

早期に進めるということで、この3つの施設の利用料軽減が妥当だと思う。賛否がある中で、様々な声を受け止めて繋がるという思いを大事にしたい。その中で、公募も含めて検討していることや取組が見える化する必要性がある。

様々な遊び場についてSNSでアンケートをとったり、協議会での検討経過を発信したりすることで、自分事として身近に感じ、遊び場が認知されていくと思う。遊びは皆がわくわくするものであり、そこに行くと楽しい、リラックスできるという居場所になるよう、プロセス自体を共有しながら取り組んでいくと良い。

皆川市長

おそらく県内を見渡してもここまで深い議論をしている自治体はなく、この協議会を誇りに思う。鶴岡市が町から市になって昨年で100年経ち、社会情勢や価値観も変わってきてい

る中で、行政側の少し浅い考え方を指摘いただいた。施策の恩恵を受けないままこども達が成長していくことになってしまわないよう、理想と現実の中でどのような着地点を見出すかが重要になってくる。今日のご意見をもとにしっかり説明をすることで、3つの施設だけの話ではないことが伝わると思う。行政が恣意的に決めるのではなく、民間の力を取り入れながら、こどもの成長に必要な遊びに投資をして支えていくということが大事になる。

令和7年度はできるだけ早期に実現できることに取り組み、令和8年度は公募やパートナーシップなど、官民一緒になってこどもまんなかに取り組みたい。

議長

すぐ取り組みそうなものと、リストアップなど時間をいただくもの、議会からの宿題のクーポンをどうするかなどがある。これらについて、事務局としてどう考えるか。

事務局（子育て推進課長）

この3施設だけがこどもの遊び場として利用料軽減対象になるとは考えていないが、できるだけ早期に要望に応えるということで、まずはスモールスタートし、市民のニーズなどを踏まえながら来年度以降の進め方を検討したい。クーポンやパスポートにはそれぞれメリット・デメリットがあるので、事務局で整理しながら、どのような形が利用しやすいか、財政負担なども考慮しながら詰めていきたい。

議長

3つの施設だけでなく、よく調査をさせて欲しいという結論であることをご承知いただきたい。今回出席できなかった方からご意見をいただいているのでお聞きしたい。

事務局（子育て推進課長）

今回ご欠席のお二人の方からご意見を頂戴したので抜粋して紹介する。

お一人目の委員からは、他にも民間施設はあるがこの3施設を選んだ理由は何か、各施設で1人が利用できる上限回数を設けるのはどうか、回数を制限することで、何度も行くこどもと全くいかないこどもの差が小さくなり、もっと訪れたいという意見があるとすれば、その施設がそれだけ求められているということが見えるのではないかと、といったご意見を頂戴した。

お二人目の委員からは、屋内で遊べる場所が少ないという現実を直視し早急に改善を図っていくことは責務である、本協議会で、屋内で魅力ある遊び場を提供できるソライに代わる対案はなかったと認識している、軽減対象とする施設について遊び場整備方針から逸脱しないように整理することで前に進むことを期待したい、行政用語ではなくやさしい言葉を用いて、こども達や多くの市民に伝わるように情報を発信して欲しい、というご意見を頂戴している。

議長

委員や仲先生からの、ずらしてはいけない視点ということで、こどもの視点ということを最重要視しながら進めていく必要があると思いながら、今の話を伺っていた。

長期的に時間がかかるものについては、十分に調査、研究、検討していきたい。いま早急に取り組まなければならない課題については、事務局の案で向かわせていただいてよろしいか。（良いの声あり）。皆様のご意見を踏まえて今後の検討を進めるとともに、短期的なものでは3施設の実証を進めるという結論にさせていただく。

最後に仲先生から、今日の協議会を通じて所見があればお話しいただきたい。

仲アドバイザー

私から付け加えることはなく、一人ひとりの言葉について、学びが深く、新たな視点も示していただき、また少し言いにくいこともはっきり仰ってくださる方に対して事務局も市長も真正面で受け止めて返すというこの協議会に、チームの一員として参加させていただいたことを誇りに思う。ここで終わりではいので、今後ともよろしく願います。

議長

仲先生には引き続きご指導よろしく願います。

協議をここで閉じる。

5 その他 事務局（子育て推進課長）

事務局から今後の進め方についてご説明する。この協議会は、今年度もう2回、7月頃と10月頃の開催を予定しており、利用料軽減事業の経過報告のほか、公園遊具の整備や中央児童館のプレーパーク整備などについて意見を伺いたいと考えている。

また、秋にはプレーパーク体験事業を行い、プレーパークを市民に知ってもらい、プレーリーダーの養成を進めるための取組を予定している。実施が決まったら皆様にお知らせするので参加や見学をお願いします。

皆川市長

私自身、今日の議論を通じて政策を作っていくことについて改めて考えさせられた。色々な学びがあり、可能であれば仲先生から市民に向けて遊びとはどういうことなのかということを知る機会を作っていただけるとありがたいと思う。地方自治を前進させるには市民が学んでいくことが大事であり、専門の方からお話を伺う機会をぜひ検討して欲しい。

6 閉会 事務局（子育て推進課主幹）

—午前11時56分終了—